

## 残留農薬検査(その2)

---

当所では、横浜市内に流通する農作物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より農作物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成22年6月から8月末の期間に食品専門監視班により搬入された農作物等の検査結果を報告します。

### 1 市内産農作物

6月に搬入されたきゅうり及びじゃがいも(各3検体)の計6検体、7月に搬入されたさやいんげん及びとうもろこし(各3検体)の計6検体、8月に搬入されたなす、なし及びぶどう(各2検体)の計6検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、なし2検体及びぶどう2検体から農薬がそれぞれ検出されました。ただし、検出された農薬について残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

### 2 国内産農作物

6月に搬入されたアスパラガス3検体、7月に搬入されたブロッコリー、みず菜(各2検体)、キャベツ、グリーンカール、トマト及びレタス(各1検体)の計8検体、8月に搬入されたピーマン、すいか(各3検体)及びもも(2検体)の計8検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、アスパラガス1検体、グリーンカール1検体、トマト1検体、レタス1検体、ピーマン1検体、すいか1検体及びもも2検体から農薬がそれぞれ検出されました。ただし、検出された農薬について残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

### 3 輸入農作物(冷凍食品を含む)

6月に搬入されたチコリ(2検体)、たまねぎ、トレビス、パプリカ及びポアロ(各1検体)の計6検体について残留農薬検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、パプリカ1検体及びポアロ1検体から農薬がそれぞれ検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものではありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出された農薬の概要については、11ページからの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H22年6月～H22年8月末)

農作物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
<b>市内産農作物</b>						
きゅうり	横浜市	3	0			
じゃがいも	横浜市	3	0			
さやいんげん	横浜市	3	0			
とうもろこし	横浜市	3	0			
なす	横浜市	2	0			
なし	横浜市	2	1	{ クレソキシムメチル	0.20	5
				{ クロルフェナピル	0.02	1
				{ テブフェンピラド	0.14	0.5
				{ フェンプロパトリン	0.22	5
			1	{ クレソキシムメチル	0.02	5
				{ クロルフェナピル	0.02	1
				{ デルタメトリン及び	0.02	0.5
				{ トラロメトリン	0.16	5
				{ フェンプロパトリン	0.16	5
ぶどう	横浜市	2	1	{ アゾキシストロビン	0.14	10
				{ ペルメトリン	0.05	5.0
			1	{ アゾキシストロビン	0.02	10
				{ クレソキシムメチル	0.03	15
				{ クロルフェナピル	0.04	5
				{ ペルメトリン	0.10	5.0
				{ チアメトキサム	0.02	2
<b>国内産農作物</b>						
アスパラガス	国産	3	1	{ アセタミプリド	0.02	5
				{ クロチアニジン	0.01	0.7
ブロッコリー	国産	2	0			
みず菜	国産	2	0			
キャベツ	国産	1	0			
グリーンカーネル	国産	1	1	イミダクロプリド	0.05	5
トマト	国産	1	1	{ インドキサカルブ	0.02	0.5
				{ ボスカリド	0.15	5
レタス	国産	1	1	プロシミドン	0.04	5
ピーマン	国産	3	1	{ アセタミプリド	0.21	5
				{ クロルフェナピル	0.01	1
				{ メキシフェノジド	0.13	3
すいか	国産	3	1	プロシミドン	0.01	3
もも	国産	2	1	{ アセタミプリド	0.10	5
				{ アゾキシストロビン	0.02	1.5
				{ クロルピリホス	0.02	1.0
			1	チアクロプリド	0.04	1
<b>輸入農作物</b>						
チコリ	ベルギー	2	0			
たまねぎ	中国	1	0			
トレビス	アメリカ	1	0			
パプリカ	韓国	1	1	{ アクリナトリン	0.05	1
				{ クロルフェナピル	0.73	1
				{ テブフェンピラド	0.34	0.5
				{ プロシミドン	0.06	5
				{ ボスカリド	0.01	10
ポアロ	ニュージーランド	1	1	{ アラクロール	0.01	0.01
				{ トリアジメノール	0.09	0.2

表2 農薬の検査項目及び検出限界(114項目)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農薬名	検出限 界 (ppm)	農薬名	検出限 界 (ppm)
BHC ( 、 、 及び の和)	0.005	ジコホール	0.01	フェニトロチオン	0.01
DDT (DDE、DDD 及び DDT の和 )	0.005	シハロトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
EPN	0.01	シフルトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	シペルメトリン	0.01	フェンチオン	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメチルピホス	0.01	フェントエート	0.01
アゾキシストロピン	0.01	ジメエート	0.01	フェンバレレート	0.01
アラクロール	0.01	シメトリン	0.01	フェンピロキシメート	0.01
アルドリン及びディルドリン	0.005	スルプロホス	0.01	フェンプロパトリン	0.01
イソフェンホス	0.01	ダイアジノン	0.01	ブタクロール	0.01
イソプロカルブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタミホス	0.01
イプロベンホス	0.01	チアメトキサム	0.01	ブプロフェジン	0.01
イミダクロプリド	0.01	チオベンカルブ	0.01	フルジオキシソニル	0.01
インドキサカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルシトリネート	0.01
エスプロカルブ	0.01	テトラクロルピホス	0.01	フルトラニル	0.01
エチオン	0.01	テトラコナゾール	0.01	フルバリネート	0.01
エトプロホス	0.005	テトラジホン	0.01	プロシミドン	0.01
エトリムホス	0.01	テブコナゾール	0.01	プロチオホス	0.01
エンドスルファン ( 及び の和)	0.005	テブフェノジド	0.01	プロパホス	0.01
エンドリン	0.005	テブフェンピラド	0.01	プロピザミド	0.01
オキサミル	0.01	テフルトリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カズサホス	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロモプロピレート	0.01
カフェンストロール	0.01	デルタメトリン及び トラロメトリン	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
カルバリル	0.01	テルブホス	0.005	ヘキサフルムロン	0.01
クレソキシムメチル	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘブタクロル (エポキシドを含む)	0.005
クロチアニジン	0.01	トリアジメホン	0.01	ペルメトリン	0.01
クロマフェノジド	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ペンコナゾール	0.01
クロルピホス	0.01	パラチオン	0.01	ホサロン	0.01
クロルピホスメチル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェナビル	0.01	ハルフェンブロックス	0.01	マラチオン	0.01
クロルフェンソン	0.01	ピフェントリン	0.01	マイクロブタニル	0.01
クロルフェンピンホス	0.01	ピペロホス	0.01	メチダチオン	0.01
クロルプロファミ	0.01	ピラクロストロピン	0.01	メキシフェノジド	0.01
クロロクスロン	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メタクロール	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリプチカルブ	0.01	メトリブジン	0.01
シアノホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メピンホス	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	リニユロン	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リンデン( -BHC)	0.002
ジクロラン	0.01	フェナリモル	0.01	ルフェヌロン	0.01

DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

## 【農薬解説】

### アクリナトリン

『アーデント』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤で、鱗翅目などの害虫やダニ類に効果があります。

### アセタミプリド

『モスピラン』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。広く使用されている有機リン系農薬などに対して効きにくくなった多くの害虫に対しても効果があります。

平成22年度に実施した検査において、キャベツ、チンゲンサイ及びトマトから検出された農薬です。

### アゾキシストロピン

『アミスター』などの商品名で一般的に販売されている殺菌剤で、多くの菌類に対し強い抗菌効果があります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬です。

### アラクロール

『ラッソー』などの商品名で一般的に販売されている除草剤で、一年生雑草(特にイネ科雑草)に高い効果があります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬です。

### イミダクロプリド

『アドマイヤー』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤で、即効的な殺虫効果があります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬で、平成22年4～5月に実施した検査において、ほうれんそうから検出された農薬です。

### インドキサカルブ

『トルネード』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤で、果樹や野菜等に発生する鱗翅目害虫に効果があります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬です。

### クレソキシムメチル

『ストロビー』などの商品名で一般的に販売されている殺菌剤です。特にうどんこ病、黒星病、べと病などに対して効果があるとされています。

### クロチアニジン

『ダントツ』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。半翅目害虫やアザミウマ目害虫などの各種害虫に高い殺虫効果がある一方で、蚕やミツパチなどに影響を及ぼす恐れがあることも知られています。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬です。

### クロルピリホス

『ダズバン』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。果樹害虫防除用の薬剤で、特にハマキムシ類に効果があり、速効性と残効性があります。

### クロルフェナピル

『コテツ』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。多くの野菜に適用があり、従来の殺虫剤に耐性がある害虫に対しても効果があります。

4～5月に実施した検査において、キャベツから検出された農薬です。

#### チアクロプリド

『バリアード』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。吸汁昆虫や咀嚼昆虫に効果があり、ミツバチなどに対しては影響が少ないとされる薬剤です。

#### チアトキサム

『ビートルコップ』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤で、半翅目や鱗翅目等の広範囲な害虫に効果があります。

#### テブフェンピラド

『ピラニカ』などの商品名で一般的に販売されている殺ダニ剤です。ハダニ類の生育における全ての段階で効果があります。

#### デルタメトリン及びトラロメトリン

トラロメトリンは『スカウト』などの商品名で一般的に販売されています。一方、デルタメトリンは農薬登録されていません。しかし、トラロメトリンの一部が分解してデルタメトリンになるため、併せて評価していません。

#### トリアジメノール

『バイタン』などの商品名で知られている殺菌剤ですが、日本では未登録の農薬です。果樹や野菜等のうどんこ病、さび病、赤星病などの防除に効果があります。

#### フェンプロパトリン

『ロディー』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。広範囲の害虫(特にハダニ類)に対して有効的に作用する農薬です。

#### プロシミドン

『スミレックス』などの商品名で一般的に販売されている殺菌剤です。野菜や豆類の菌核病や灰色かび病、ももやおとうもの灰星病などに効果があります。

#### ペルメトリン

『アディオン』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。茶、果樹、野菜などの主要害虫の防除に使用される農薬です。

#### ボスカリド

『カンタス』などの商品名で一般的に販売されている殺菌剤です。各作物の灰色かび病や菌核病に対して高い効果があり、残効性や耐雨性もあります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬で、4～5月に実施した検査において、トマトから検出された農薬です。

#### メトキシフェノジド

『ランナー』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。種々の鱗翅目害虫に対して異常脱皮を促すことによって殺虫効果を示す農薬です。

#### 参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会，農薬ハンドブック2001年版
- ・農薬残留分析法研究班，最新農薬の残留分析法(改訂版)
- ・各農薬製造会社H.P.

【検査研究課 微量汚染物担当】